バラエティ豊かなラインナップ
チョコエッグ
本物のおいしさ
セコイヤチョコレート
フルタ製菓株式会社
〒544-0023　大阪市生野区林寺6-7-22

菓子・食品・パン関連資材専門紙　流通記者会加盟紙

菓業食品新聞

The Journal of confectionery

URL:http://okashi.info　e-mail:okashi@nespe.com

平成30年　3月22日（木曜日）
（毎月12、22日発行）第2183号
昭和41年7月2日第3種郵便物認可

発行所　〒553-0003 大阪市福島区福島 1-2-12-605
TEL 06(6458)2045 FAX06(6458)6520
株式会社 菓業食品新聞社
支社・京都
発行人　狩野　智子　　一ヵ年　8,400円

DAGASHIで世界を笑顔にする会

3月12日「だがしの日」

だがし文化を世界へ発信

石巻、子どもたちに5万個配布

「DAGASHIで世界を笑顔にする会」（会長＝㈱大町・秋山秀行社長）では、「だがしの日」に認定された3月12日（月）に、3回目のイベントを開催した。

同会は、2015年4月に、だがし文化を将来にわたり継承し、さらに世界へ発信するために有志企業18社（阿部製菓、岩本製菓、オリオン、共親製菓、クリハラ、コリス、澁谷食品、杉本屋製菓、すぐる、チーリン製菓、ツバメ玩具製作所、東豊製菓、トップ製菓、中野物産、パイン、やおきん、SAMURAI JAPON、大町）により発足。今年2月現在の会員数は、駄菓子や玩具メーカーを中心に127社で構成されている。

だがしの日の由来は、お菓子の神様として知られる橘本神社の前山和範宮司が、お菓子の神様、田道間守命公の命日とされる日が良いのでは、と提唱されたことがきっかけになった。この日を「だがしと笑顔の交換日」とし、子どもたちの笑顔があれば世界の戦争はなくなり、平和につながっていくだろうという想いの下に発足した。

昨年は、岡山と大阪の2カ所での開催だったが、今年は宮城県石巻市（同市共催）をはじめ大阪、岡山（岡山市、池田動物園）、西東京（だがしやかなん・ヤギサワベース）の計4カ所に広げて開催した。

聖火台点火（左から2番目＝秋山会長）

上から、石巻だがしリレー、大阪会場の様子

石巻では、「世界平和の旗印として石巻より発信！」をコンセプトに、午前に幼稚園4カ所を巡り、約800人の園児にだがしを配った。

午後には、総合運動公園にて「だがしリレー＆聖火台点火」を行い、約100人が運動公園に集まり、聖火台に点火した。同イベントには石巻市の亀山紘市長や、同市実行委員長の佐々木孝寿氏、ランナーの谷川真理さんらも参加した。その他、「石巻だがし屋ラリー」、「ソフトグライダー選手権」など楽しい企画を盛り込み、約50種類、合計5万個ものだがしを配布した。

なお、東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻で、世界平和を願ってお菓子のイベントを行うことに対しローマ法王から感謝の書が届いている。

大阪・小松商店街　1500個を配布

大阪会場となった小松商店街（大阪市東淀川区）では、大阪経済大学の学生（理学博士・山本俊一郎教授指導）ら約15人の企画・設営のもと行われた。午後2時の開始より近隣の保育園、幼稚園、小学校から大勢の子どもたちや保護者が訪れ、賑わった。

同商店街の中村卓司会長によると「2カ月に一度、フリーマーケットをやっており、大経大の学生さんたちがボランティアで手伝ってくださっている。菓子のイベントは今回が初めてで、事前にチラシを近隣へ500枚配布した。商店街が活気づく良い機会なので、今後もぜひ継続していきたい」としている。

会場では、塗り絵や、お菓子のつかみ取り、千本引きなどを企画、子どもたちは行儀よく列をなし、嬉しそうにお菓子を受け取っていた。また、同大学のマスコットキャラクター「はてにゃん」も登場し、ポケットからお菓子が配られ、大はしゃぎの子どもたちであふれた。

大阪では約1500個の配布菓子を用意したが、開始から2時間で1000個がなくなる人気ぶりとなった。なお、NHKが取材に訪れ、夕方のニュース番組で放映された。小松商店街をはじめ大阪の駄菓子専門店や駄菓子バーも話題に取り上げられた。

3月12日がだがしの日であることが、全国へ徐々に広まっていくと共に、楽しいイベントで年々盛り上がっていくことが期待される。

全国ビスケット協会

キャンペーン抽選会

応募数32万2500通

（一社）全国ビスケット協会（伊藤雄夫会長）は3月8日（木）14時より、東京・港区の同協会会議室にて、「2018年ビスケットまつりキャンペーン・オープン懸賞抽選会」を開催した。

始めに伊藤会長が挨拶に立ち「ビスケットの普及・啓発の一環として実施しているキャンペーンは第38回を迎える。海外旅行招待及びビスケットセットのプレゼントという形態では平成9年より実施しており、今回で22回目となり、32万2584通の応募があり前年比5・19%増となった。旅行先が人気のリゾート地ハワイということで、応募が増加したとみられ、ビスケットの普及・啓発という点からも一定の成果が上げられた。また、この旅行では参加者がお菓子に接するプログラムが組み込まれており、ビスケットとの関係の深い外国体験を提供していることも特長のひとつだ。

伊藤会長（中央）

今後もビスケットの美味しさはもとより、健康で安全な食品であることを第一に掲げ、消費者に食の楽しさを提供できるよう製品の製造・開発に努めていきたい」と述べた。

次に抽選方法の説明があり、到着順に並べられたハガキ、応募用のチラシから協会役員、マーケティング委員、業界紙記者などが厳正に抽選を行った。キャンペーン概要は次のとおり。

◎実施期間＝平成29年11月1日～30年3月4日（インターネット6日）、全国一円を対象とした オープン懸賞方式

◎賞品
A賞＝ハワイ6日間の旅　14組28人（平成30年5月30日～6月4日の予定）
B賞＝ビスケット詰め合わせ（2000円相当）　2280人

◎応募数＝32万2584通（前年比5・19%増）

2面 近菓卸 流通問題検討会議
4～6面 原材料・資材・機器特集
8面 京都府 現代の名工表彰